



インバウンドビジネスから事業承継を 活用し無添加調味料販売へチャレンジ

株式会社lib 代表取締役 古賀 愛理氏

医療の現場から転身 インバウンドビジネスを起業

韓国を中心にインバウンド事業を展開する福岡市中央区港の株式会社lib。代表取締役の古賀愛理さんは看護師出身という異色の経歴を持つ若き起業家です。6年間病院に勤務した中で「もっと社会のことを知りたい」と感じ、インバウンドビジネスを手がける企業に入社。約1年間にわたって事業や広告などについて学び、2018年10月に独立しました。手始めに『TycheDay』という韓国人向けのアクティビティ体験サービスを開始。韓国にしながらインターネット上で予約から決済までが完結でき、訪日時には証明書を見せるだけで寿司握り体験や家庭料理教室、伝統工芸品づ

くりなどのアクティビティに参加することが可能です。その手軽さから利用者を着実に増やし、古賀さん自身も、サービス運営に携わるだけではなく、スタンドアップパドルボード（SUP）のインストラクターとしても活躍しています。

「『TycheDay』は運命の日という意味です。運命のように日本人と韓国人が出会い、体験をきっかけに心を通わせるサービスにしたいと思いました。もちろん言葉の壁はありますが、コミュニケーションをとっていくことで心は通じ合える。そういうインバウンドビジネスに非常に楽しさを感じていました」と古賀さんは話します。

ところが新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、訪日観光客は激減。全国的にインバウンド事業を取り巻く環境は

激変しました。しかし古賀さんは諦めることなく、これまでのPR経験を生かし、企業のPR動画作成やSNS運用コンサルなどのビジネスへ事業を転換していきました。

「個人的にはチャレンジせずに後悔するより、失敗したとしてもチャレンジして後悔したほうが良いと思っています。若い人の中にはリスクを怖がるあまりにさまざまなことにチャレンジしない人も多いですが、若いからこそ絶対に取り返せる。やりたいと思ったら、どんどんチャレンジしていくべき」と同世代にエールを贈ります。

事業承継で 新たなビジネスに挑戦

そんな折に、古賀さんが出会ったの

【プロフィール】

福岡県出身。看護師として医療現場で従事した後、インバウンド事業（ビジネス）に出会い2018年に株式会社libを起業。2020年10月から事業承継により無添加調味料の製造販売事業を展開する。



1



2



3



4

1 libが運営する「TycheDay」。動画なども活用しながらアクティビティを紹介し、日韓交流の架け橋に

3 瀬口さん(左)らの期待を受けて事業承継を決めた古賀さん。「このおふくろの味をたくさんの人に広めたい」と話す

2 古賀さん自身も運動が好きで、「TycheDay」で提供するアクティビティの講師を務めている

4 『まんま』のほか、有機米酢や梨酢などをブレンドした『まろやか酢』、ポークとチキンの旨味を凝縮した『まんまのばいたん』を販売

が株式会社すばいす・1の瀬口美津子さんでした。すばいす・1は国産の素材にこだわった無添加の粉末調味料『まんま』などの製造販売を行ってきましたが、社員の高齢化などから事業承継先を模索していたといいます。

「新聞の報道などで家庭料理に使っている調味料にたくさんの添加物が含まれていることを知りました。孫の世代のためにも、添加物が入っていない調味料をつくりたいという思いから『まんま』を開発しました。販売から15年が経ち、創業当時平均年齢61歳だったスタッフ、そしてご愛顧いただいたお客さんも高齢化し、新たに若い世代に販売しようにも私たちにはインターネットなどの販売ノウハウがありません。たくさんの思いが詰まった商品なので、ここで絶やしたくはないと事業承継を検討し福岡県事業引継ぎ支援センターに相談したところ、古賀さんに出会い、この人になら事業を引き継いでも大丈夫だと感じました。これからは古賀さんの活躍に期待して、その後押しをしたいですね」と瀬口さん。

2020年10月8日、古賀さんはすばいす・1の代表取締役役に就任。今後は

SNSなどを活用しながら、子育て世代への販売強化をめざします。

古賀さんは「いまはインターネットの時代。これまでやってきた経験を活用して、ECサイトでの販売やSNS、動画をうまく使いながら『まんま』のプロモーションに取り組んでいきたいと思っています。また日本産の素材を使った無添加調味料ということで、海外の方にも需要があるはず。インバウンド事業でパイプのある中国や韓国などにも流通できるようにチャレンジしたい」と意気込みます。

また2020年3月には福岡市中央区港に海鮮居酒屋をオープンしたlib。そこでもすばいす・1の商品を使った唐揚げなどを提供し、体験から顧客を増やしていきたいと目論んでいます。

事業承継はビジネスの武器を増やすチャンス

ウィズコロナの時代に、果敢に挑戦を続ける古賀さん。苦しい時代だからこそ、挑戦する姿勢を崩さないのだからいいです。

「事業承継については迷いも少しあ

りました。しかしリスクを考えすぎていては、自分がやれることを狭めてしまう。2025年には団塊の世代が75歳以上になり、約200万社の企業がなくなってしまうと言われています。そうした中、事業承継はひとつの方法。私たちのように新型コロナウイルス感染症で事業が行き詰まってしまう企業もたくさんあると思いますが、事業承継をうまく使えば新しいビジネスの武器を手に入れるチャンスにもなります。安定を選びたくなる時代ではありますが、機会を捉えて武器を増やしていくことも重要ではないでしょうか。そう話す古賀さんの挑戦は、まだまだ続いています。

取材日：10月5日



株式会社lib

〒810-0075 福岡市中央区港2-4-23-2

TEL.092-791-9299

<https://lib-fukuoka.work/>